



地域学校協働活動 合同避難訓練(あさくら館・朝倉小学校)

5月26日、横浜市指定の避難所となっている朝倉小学校を会場に、地域住民と小学生による避難訓練が実施されました。あさくら館(地区交流センター)で実施している地域の避難訓練と、朝倉小で例年行っている避難訓練を連携・協働して行うことで、地域と学校のつながりを深めることをねらいとしたものです。

参加した6年生は、近隣の町内会長さんから昭和40年の大洪水の話聞き、被害の大きさに驚きの声を上げていました。その後は地域の方々と子どもたちが協力して段ボールベッドを組み立てたり、テントを設営したりして、避難所の開設の仕方を学びました。

ご存じの通り、7月の大雨により秋田県内各所では甚大な被害がありました。局所的・突発的な豪雨が増えていますが、地域と学校が一体となって避難訓練を行った経験は、いざというときに大きな力となることと思います。



横手市夏休み子ども教室「十文字和紙ではがきをつくろう」

夏季休業中に開催されている横手市夏休み子ども教室の中から、7月27日に十文字西地区交流センターで行われた「十文字和紙を使ったはがき作り」を訪問してきました。原料の楮(こうぞ)やノリウツギ、和紙作りの道具を初めて見ましたが、十文字和紙愛好会の方から丁寧に教えていただき十文字和紙の素晴らしさを改めて感じる事ができました。活動の中で子どもたちが目を輝かせて、紙漉きをしたり、圧力をかけて水切りをしたりしている姿が印象的でした。十文字和紙は地元の卒園証書や卒業証書にも使われており、今回の参加者や愛好会の会員の中には、幼少期の体験等から和紙作りに関わるようになった方もいらっしゃるそうです。参加者からは「十文字和紙を地域おこしにつなげたい」という声も聞くことができ、これからの活動に注目していきたいと思えます。



アドバイザーコラム：学校・家庭・地域の連携・協働 26

部活動の地域移行⑥

社会教育アドバイザー 小笠原 重夫

中学校の休日の部活動を校外の指導者に委ねる「地域移行」が、文化部でも運動部と同じように進められることは、前号でもお知らせしました。

取材や聞き取りを進めていくと、指導者や練習場所の確保などが共通の課題として上がる一方、例えば吹奏楽部では楽器の運搬や保管、修繕が必要になるなど文化系特有の高いハードルが存在することに、改めて気付かされます。

中学校では、クラリネットやフルートなどは部員自身で購入するとしても、大きくて高価な管楽器や打楽器などは、学校予算や保護者会で集めた部費で購入されることが多いのではないのでしょうか。そのような費用の捻出は、地域移行が進めば当然大き

な課題となります

文化庁では、文化系部活動移行のポイントとして、「①受け皿は、文化団体やカルチャースクール、芸術系大学を想定。受け皿がない場合は、自治体が音楽経験のある住民らと団体を設立することも選択肢」「②練習場所確保のため、学校施設や廃校施設も活用」「③困窮世帯への会費補助の検討」等を挙げていますが、このことは地方でどれだけ可能でしょうか。指導者確保や会費補助の後押しとなる公的補助の導入は、運動部活動移行はもちろんです。文化部活動移行の方にこそ必要な気がしてきます。

予算も場所も人材もなければ、誰もが音楽に親しむ環境そのものが失われてしまうのではないかと、少し心配にもなります。

